

くりのみ広場

くりのみ広場 令和5年新年号 (No.61)

発行・編集：社会福祉法人四幸舎和会 大阪府豊能郡能勢町下田尻20番地 TEL 072-735-2212 FAX 072-735-2213

発行責任者：大崎年史

★新年号のキラキラさん

毎号 元気に輝く利用者をキラキラさんとして紹介します!

新年号は おおざとの赤いやねのキラキラさん です。



スタッフと
かかわりプログラム中



ピース✌
ピース✌



index

理事長より	年頭所感	P2~3
事業所めぐり	各事業所のクリスマスの様子	P4~5
職員コラム	くりのみ園のスタッフです	P6~7
寄附寄贈の紹介・法人の社会貢献 (CSW 活動)・ひとこと		P8

【年頭所感】

社会福祉法人四幸舎和会

理事長 大崎 年史



年末に大阪府の新型コロナ警戒信号が“赤色”に変わり、すっきりとしない新年を迎えました。大阪知的障害者福祉協会の加盟事業所で2回目、3回目のクラスターが発生しているところもあり、当法人の各事業所へは感染予防を徹底するよう今なお発信し続けています。

昨年10月、くりのみ園と能勢くりのみホームにおいて、クラスターに伴う行動制限を行いました。また、池田のホームやセブン&チェリーでも、利用者や世話人さんが単発的に感染され、その都度対応するなどウイズコロナの1年でありました。くりのみ園でのコロナ感染を少し詳述します。10月17日の朝にコロナ感染を確認（利用者2名、スタッフ3名）し、即座に園内をゾーニングしましたが、感染力が非常に強く、予想を超える速さで感染が拡大しました。重症化しないとはいえ、10月24日（感染確認から8日目）の時点がピークで利用者19名が感染されました。また、スタッフも最大7名が勤務できない状況になりましたが、他事業所からの応援など『オールくりのみ体制』で乗り切り、10月31日に池田保健所への定期連絡が終了しました。防護ガウン等を着用して利用者支援に当たったスタッフへあらためて敬意を表します。ご苦労様でした。

コロナ禍の3年間、一番被害を被ったのは利用者の皆さんであることを、法人スタッフ一同あらためて認識するとともに、日々楽しく、笑顔で過ごせる1年になるよう励んでいく所存です。この原稿を書いているときに、国が感染症法を見直し、春には5類へ引き下げるといふ報道がありました。出口が少し見えてきたので、我々にとっては吉報ではあります。

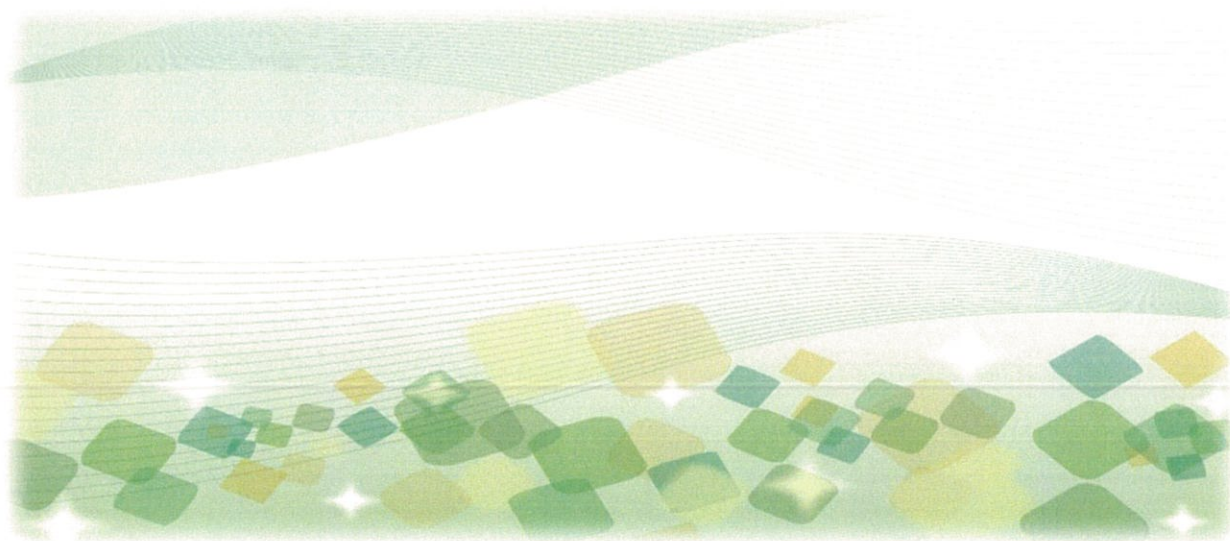


さて、年の初めに悲しいお知らせをしなければなりません。昨年12月4日(日)午前8時20分、くりのみ園の利用者(男性)が朝食のパンを喉に詰められました。食事支援を行っていた2名のスタッフが、すぐに異変に気づき背中を叩いたり、腹部を突き上げるなどの処置を行うとともに、救急隊の指示でAEDを使用しての心肺蘇生を試みるなど必死で救命処置を施しました。容体が重篤なためドクターヘリで阪大高度救命救急センターへ搬送され、ご家族も駆けつけていただきましたが、救命の願いが叶わずその日のお昼過ぎにお亡くなりになりました。突然の出来事で、ご家族の悲しみは言うまでもありません。事業所内で起こった事故は事業所の責任ですので、謝罪と状況及び対応等の説明を丁寧に行いました。当方に対する批判や叱責は口にされることなく、淡々と受け答えをされ心が痛みました。ご両親は、「あとのことはすべて我々の方で執り行います…」と気丈に言われ、7日に告别式が執り行われました。また、12月13日にはご両親でくりのみ園に最後の挨拶に来られ、親の責務を立派に果たされ、今でも頭が下がる思いです。

私たちは今回の事故で、再発防止策を検討することも含めて、多くのことを学ばなければなりません。障がいのある子を必死で育てられ、施設(事業所)に託された親の願いや悔いの残らない支援を日々行うことの大切さを今一度真摯に考え、スタッフ一人一人が成長していくことを誓いたいと思います。

今年4月には、1名の新卒者へ辞令交付します。人(スタッフ)が成長する法人には優秀な人材が集うと信じて、この一年運営して参ります。

本年もよろしくお願いいたします。





それぞれのクリスマス



くりのみ園

かたやまの赤いやね

おおざとの赤いやね

セブン&チェリー作業

1 年を振り返って

くりのみ園支援員 細井 実奈

就職してもうすぐ1年です。もう就職してから1年になるのかと、時間の流れる速さに驚いています。コラムを書く機会を頂いたので、この機会にきちんと自分自身を振り返り、今後につなげていきたいと思っています。

(入職のきっかけと支援員のイメージ)



高校生まではやりたい事、将来の夢なども無く、大学はとりあえず資格が取れる学部に行こう、と福祉学部を選びました。しかし福祉を学んでいく中で、人の人生に関わる事の出来る仕事が福祉職であると感じました。また障がい分野での実習でこの仕事をしたいと思い、就職しました。ところで、支援員の仕事は全く知らない人から見ると、食事介助、入浴介助、トイレ介助などで他には何をしているのか分からないという事をよく聞きます。大学生の頃からそうではない、福祉職は人の人生を豊かにしていけるものだ!とっていました。しかし実際には結局何をするのか、どのようにして人の人生を豊かにしていく事が出来るのか、きちんと想像は出来ていませんでした。

(実際に仕事を始めて)

大学では福祉の歴史や制度などについては学び、実習にも行きました。しかし実際に働いてみると支援員の仕事とはどのような物なのか、大学では分からなかった事が見えてきました。業務にはもちろん食事介助、入浴介助などがあります。しかしその業務の中で利用者の方の特性を理解し、どのように接することが利用者の方にとって最善なのか、支援者に求められるものは何かを考えなければならないのだと感じるようになりました。支援の方法ではありませんが、担当利用者の衣服を代理で購入する際に、考えながら選んだのですが、試着で合わすこともできなかったため、ちょうどよいサイズを購入できなかつたりすることもありました。衣服の購入ですら、ボタンのないもの、年齢に合ったデザインなど、利用者の立場になる必要があり奥が深いと感じました。他にも、担当利用者の支援に何か変更がある際には、書



面で他の人にも分かるように周知を出さなければなりません。入れ替わり勤務のため直接は説明出来ない事もあり、文章のみで全員が何をしなければならぬか分かるように伝える難しさも実感しました。

（今後の目標）

1年目は仕事を覚えてこなす事で精一杯な状態でした。最近やっと仕事に慣れてきて、自分が何をしなければならぬのか、どのような事を学んでいくべきか考えています。障がい特性についてや、日々の過ごし方、毎日の支援の中での接し方等、学んでいかなければならぬ事は沢山あります。目の前の利用者の方に向き合い、自分の出来る事を一つ一つやる事で、少しずつ利用者の人生を豊かにしていければと思っています。



スタッフのコメント

入職されて学生時代から大きく環境が変わり、とても大変だったと思います。まずは1年間ご苦労様でした。

1年目ながらも既にこの仕事の醍醐味と必要不可欠な部分に気づかれていますね。それはどうすればより良くなるのかについて、とにかく相手のことを考えるということをしていることです。衣服の購入の際に実際に着てもらうことや好みを聞き出すということが難しい中「どうすればいいかな？」とたくさん考えてくれたことと思います。その時はもしかしたら結果を含めて明確な答えは出なかったかもしれませんが、しかしその時に利用者のことを考えていた時間が人生を豊かにする次へと繋がるのではと思います。

私たちが行っている支援はいつでも明確な答えが出なくても進めていかなばならないことがあります。これがこの仕事の大変さです。しかし、細井さんが書いてくれた利用者の立場になり、もしかしたら・・・、もっとこうすれば・・・

と、思いながら支援をおこなうことが利用者の人生の質の向上に繋がります。人のことを考えて動いた分、必ず自分にもお返しが来ます。そんな考え続ける細井さん自身を大切にしながらこれからも支援を頑張っていってください。

くりのみ園 支援主任 下園 祐耶



